

平成 27 年度 学校法人 三幸学園 東京リゾートアンドスポーツ専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：教務課長 矢野 洋美

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 笠松 淳史

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和60年の開校以来30年にわたり、『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的スキルを十分持ちながら、常に変遷する社会に対して柔軟に対応するため日々研究を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

そして、学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳、「三幸学園の原点 あきらめない教育」に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「ビジョンミーティング」、「サマーセミナー」においては、学園長及び理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、学内で行われる年3回の全体会議にて共有化を図っているものである。また、生徒に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「成功の法則」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①重点施策振返り

・人間性を高める教育の実践

「スポーツを通じて健康と楽しさを提供する人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真の社会に役立つ人材を輩出できると考えている。

・高い現場力の醸成

現場力の醸成を目的に、各学科で重点教育項目を作成し、全教職員への目合わせを行うほか、学科会や主要科目会を実施することにより、教育の行き届きのきめ細かさを図ることにより、質の向上を実現できるように計画している。

②学校関係者評価委員会コメント

- ・現場力向上において施設設備への費用投資は良い効果を生んでいるのではないかと？
- ・能力の高い学生に対して、更にレベルの高い教育機会を与えてもよいのではないかと。伝統として積み重ねてきた教育内容をさらに向上をさせる必要がある。
- ・現場実習が成長の肝となる。学内教育だけでは成長に限界があり、能力を養う上では現場が一番の成長を実感できるのではないかと。今年度実習生を受け入れているが、挨拶等を上手く出来ない生徒がいた。人前に出る力が不足しているのではないかと。今後鍛えていく必要がある。
- ・今後個に対して、内発的動機付けが出来るような取組を検討していく。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

① 課題

- ・学校の理念・育成人材像を保護者の末端にまで浸透をしきれていない。
- ・育成人材像が明確ではあるが、将来の出口が多様化しており、人材像と就職先を結びつける必要性がある。

② 今後の改善方策

- ・保護者への理解を深めるために、保護者説明会を複数回実施する。また引き続き電話連絡等による保護者への報告及び、教育内容の理解に努めて頂く
- ・業界への理解を深める内容をホームルーム、就職対策などで実施し就職先と人材像を結びつける。

③ 特記事項

- ・教育理念から人材育成をより体系化するべく三幸学園の教職員としてのビジョンを設定し、全教職員へ浸透している。業界ニーズを学ぶ為に、産学連携として、フィットネスクラブと提携を結び、業界の即戦力となれる人材育成の為にカリキュラム等を共同開発している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・入学前の保護者説明会にて十分学校理解の説明周知は出来ていると思う。
- ・50人ほど卒業生と繋がっているが、現状トレーナーとして仕事をしている人材が少ない状況もある。良いことばかりでは無く、現実も保護者の方に対して説明する事や意識づけをしていく必要があるのではないかな。これだけ良い環境を駆使する上では事前説明が必要だと思う。
- ・卒業後の現場就職率や現場での就職継続率等を明確になればよい。

(2) 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

- ・WEB 会議などを積極的に活用し、会議の効率化を図り、姉妹校との連携、情報の共有を行っている。
- ・グループウェアや共有サーバー等の導入による活発な業務効率化を図っている。

② 今後の改善方策

- ・情報公開の在り方や、より理解しやすい情報の公開方法を最優先に考え、必要な情報や不必要な情報の精査を図り、組織に必要な情報を共有していく。
- ・簡易的方法で情報の公開や共有をしていく(WEBを活用)。

③ 特記事項

- ・年に3回の全教職員の会議を行い、運営方針の浸透や情報共有を積極的に行っている。
また、会議の中で意見交換なども時間の許す限り行い、学校運営に反映している。
- ・WEB 会議を通じて、タイムリーな各姉妹校との情報共有や課題に対する施策なども行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・コンプライアンスに関する取組は特に学校教育機関では非常に重要である為、積極的に実施している事をアピール頂きたい。予防をしているという事を全面に出すと良い。
- ・100名規模の会議となると、教育理念に関する擦り合わせは非常に大変ではないか。
- ・3部～5部構成で全体および小組織に分かれ、それぞれの構成において浸透の機会を図る等、意見の吸い上げを行っている。

(3) 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

① 課題

- ・教育目標や育成人材像を設定していくにあたり、現代社会の動向や業界のニーズに基づき、更なる精度を高める。

② 今後の改善方策

- ・業界動向を正確に把握するために、企業や業界団体との関係性を高めていく。その為にも、企業様や業界団体にも当校のことも理解して頂けるように、イベントの参加や企業様との連携を深めていく働きかけを続けていく。
- ・収集した情報を多面的に評価及び精査し、教育課程の編成に活用できる仕組みを構築する。

③ 特記事項

教育理念から人材育成をより体系化するべく、三幸学園の教職員としてのビジョンを「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」と設定し、スポーツ分野におけるビジョンを「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」と設定した。これらを踏まえて、人材育成方針を「スポーツを通じて健康と楽しさを提供する人材を育成する」と設定し、全教職員への浸透を実施している。業界のニーズをより深く理解し、教育に活かしていくことを目的に、株式会社ルネサンスと産学連携協定を結び、教育課程の共同編成やシラバスの共同開発を行い、業界の即戦力となる人材育成を積極的に実践している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・業界の理解の為の研修を特に担任の先生方に必要ではないか。
- ・現場経験が少ない担任もいるので、教育提携をしているルネサンス様と今後発展的に検討をしていきたい。
- ・先生と話を出来る機会をもう少し多く持てたらよい。例でいうと分野毎で相談出来る窓口を設定する事で学生の不安等を解消出来るのではないか。専門教員の設置をし、情報提供や公開を定期的に行えたらよい。

- ・ 専門学校で行うアンケートで何か課題として見えているか。
- ・ 担任アンケートの結果が全体的に低下している傾向にあり、担任により高低のばらつきがある。情報伝達等においても課題があるように感じる。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	④	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・資格試験の受験率及び資格取得率の更なる向上(昨年度比較で半分以上の合格率10%以上向上)。
- ・退学率低減に向けた教務 TEAM を発足し、重点的な生徒指導方法を確立
- ・大手就職企業への就職内定を取る為の、様々な施策の実施
- ・卒業生の社会的な活躍の情報収集と教育活動への反映。

② 今後の改善方策

- ・資格取得に向けた動機づけを統一した資料及び教材を使用してクラス毎に実施し、学内模試・対策授業の実施してく。
- ・職員会議による定期的な生徒情報共有による、生徒指導の確立と、全教職員の生徒指導スキルのボトムアップ
- ・就職校内ガイダンス、就職模擬面接、就職決起大会の実施。
- ・大手企業希望者に対する、質の高い就職指導プログラムの構築・提供
- ・各クラス生徒状況報告を月一実施し、退学防止報告書を退学予兆の時点にて作成し、傾向や今後の対策に活用する。

③ 特記事項

- ・平成27年度進路決定率(進学者含む):93.5%(平成28年3月31日現在)
- ・平成28年度退学率目標 5.4%
- ・Sanko Link の設置による卒業生とのコミュニケーションを充実

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・雇用形態において正社員、契約社員の割合はどうか。
- ・基本は正社員での就職が基本であるが、専門職での就職が非常に多い。
- ・専門学校へ入学したからこそ、2年で正社員になれたという事が専門学校の強みであると感じる。データを抽出する事で強みとして打ち出せるのではないか。
- ・ビジネス能力検定、パソコン検定についても必須受験だけではなく、更に上位資格の挑戦をしていく必要がある事と、将来への挑戦していく必要がある。
- ・上位資格についても徐々に導入を始めており、今後検討をしていきたい。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	⑤	3	2	1
中途退学者への支援体制はあるか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1

① 課題

- ・学生の健康状態の把握をした上での授業開始が出来なかった(健康診断結果の遅延)
- ・卒業生に対して、SNS を活用した案内は出来たが、具体的なアクションには至っていない。

② 今後の改善方策

- ・授業スタート時に健康管理を充分把握出来る環境設定が必要
- ・SNS による卒業生への定期的な情報配信を実施

③ 特記事項

- ・ふるさとサポート制度の導入(U ターン生徒への交通費補助支援)
- ・保護者へ電話での一斉連絡を学期始めに実施(担任による)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 経済的困難な学生が多い状況がある(特に地方)少しでも費用負担があれば、生徒も意欲的になっていくのではないかと。
- ・ Sanko Link について、学校内で広めるのが大変である。
- ・ 何か Sanko Link を広める方法はないか。
- ・ 他の SNS を利用して、拡散をしていく必要もあるのではないかと。
- ・ 今後同窓会を実施していく予定もあるので、広めていきたい。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4	ほぼ適切:3	やや不適切:2	不適切:1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・更に質の高い教育を目指し、教育環境・体制を整備する。

② 今後の改善方策

- ・社会のニーズに対応した職業教育を行うべく教育ツールを企業と連携して開発、整備する。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ スポーツの世界で競技力は成長している。指導者も成長していく上で、指導者を育成する新しいを取り入れていく為の投資が必要なのではないか。
- ・ 整備が不十分な状況もあるので、今後整備を進めていきたい。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
入学選考は適正に行われているか	④ 3 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 課題

学生募集活動は適切に行っているが、入学後の学生状況や進路状況が適切に、学生の出身高校に伝えられていない。

その学生の能力に適した学習の難易度を全て伝えきれていない。

② 今後の改善方策

首都圏地区の広報をサポートする首都圏広報室と情報を随時共有し、高校訪問にて学生の出身高校の先生方へ状況を伝えてもらう。出身校に特記事項を事前に共有してもらう。たとえば、発達障害などがある際には、程度を教えてもらう。

③ 特記事項

学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている。

学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握して上で決定している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 18歳問題や15歳問題を踏まえ、各関係機関へアプローチをしていく必要がある。確実な募集をしていく為に周知活動を積極的に行う必要がある。また、三幸学園への進学者を増やしていく為の様々な取組を行って頂きたい。在校生を活用した取組も出来たら良い。
- ・ プロテニスプレイヤーを目指す学生はテニスをする為に、通信制高校と共同で仕組みを作っている所もある。そのような取組等も出来ると良い。

(8). 財務 《※ 昨年度のもの》

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	④	3	2	1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。

② 今後の改善方策

- ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく。
- ・規模の増加に対応するための人材の育成の実施。

③ 特記事項

《中長期的な財務基盤の安定について》

- ・中期事業計画が策定され、当該計画は H25 年度に前倒しで完了している。
- ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。

《予算および収支計画の有効性、妥当性について》

- ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
- ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。
- ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。

《会計監査について》

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

《財務情報公開について》

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

- ・更なる法令遵守の推進

② 今後の改善方策

- ・会議や掲示などを通して、全ての教職員に法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る。

③ 特記事項

- ・平成 26 年度自己評価結果により公開を開始。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 評価項目通り、特に問題ないのではないか。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

地域に対する公開講座について、卒業生のフォローアップ研修の要素が強い講習会が多く、地域や一般の方に向けた講座が少ない。

② 今後の改善方策

地域在住の高齢者や子ども達を対象に、本校生徒が学ぶ内容を活かした公開講座を積極的に実施していく。

③ 特記事項

豊島区主催の「としまスポーツまつり」で、当校の学生が高齢者向けの健康体操や子ども向けレクリエーションなどを実施し、区からも高い評価を受けている。また、昨年度は障害者スポーツ団体とも連携し、障害者スポーツの認知にも協力することができた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ 豊島区の高齢化に対して、区で様々な取組がなされているが、あまり発展的な活動ではないので、リゾスポの生徒が参画する事で、より活性化されるのではないかと感じる。近隣住民との接触は、地域で共存する上では非常に大切であると感じる。何か長期休みを利用した企画をして頂けると良いと地域密着になるのではないかと。
- ・ 内部施設を活用した取組が出来ると尚良いと感じる為、今後検討していく。

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	③	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	③	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	③	2	1

① 課題

・留学生に対して、積極的な募集活動を行えていない現状がある。

② 今後の改善方策

- ・留学生に対する説明会、ガイダンスの実施を増加させる。
- ・留学生に対する就職先の確保、母国の業界状況の把握、母国の就職斡旋等を強化する。
- ・母国語の話せる職員の配置を姉妹校含めて検討する。

③ 特記事項

・平成 26 年度から「留学生学費減免入学」制度を導入している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・分野としてスポーツで入学する学生は少数。スリランカ人にとっては、スポーツ系と車系に興味がある。今後スポーツ校への入学希望者が出てくるのではないかと。国際交流の機会を増やすといいのではないかと。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

担任力の強化や学校全体として教務力の向上を図ると共に、退学率の低減を確実に進めて行く。各教員間でのリアルタイムの情報共有や連携を図っていく。また、教育内容の充実と質の向上を目指し取り組んでいくことが必要である。その為にも教員自身一人ひとりが責任感をもって行動することが大切である。学校の取り組みや体制を全教職員に理解・浸透させていき、自己評価の結果を踏まえ、業界や地域からも信頼され必要とされる学校になるように、課題解決に取り組みながら学校運営をしていく必要がある。

学校関係者評価委員会コメント

- ・生徒が何を指したいかという事が必要。メンタル面を鍛える必要があるのではないかと。モチベーションを上げる為の取組を様々検討して頂けると良い。
- ・これだけ多くの日本人学生が入学しているので、国際交流については、様々問題やリスクが伴ってくるのではないかと。様々留意して、対応した方が良い